

# 棚田に吹く風



7 2011  
月号  
Vol.77  
隔月刊



## 2 特集 棚田は守るべき なのです

### 企画展示報告

- 5 フォトエッセイ  
棚田のすがた
- 6 棚田・里山からのたより  
風渡る里 うえやま  
京都府京丹後市丹後町上山
- 8 棚田の未来予想図  
田んぼの生き物たち
- 9 棚田博士は今日も行く  
剣山に連なる旭ヶ丸山麓の棚田  
徳島県佐那河内村府能
- 12 会員のひろば
- 14 棚田ネットワークの  
かつどうノート  
スタッフのつづやき
- 15 Project Report

4月〜5月まで、東京有楽町の「丸の内さえずり館」で開催した展示。

その会場に、棚田は守るべきなのか? というテーマを掲げて、

「ご意見ボードを設置、たくさんの方の貴重な『声』をいただきました。

みなさん『棚田』に対して抱いている『思い』や『印象』はさまざま。

今回はそのご意見を誌上にて一挙公開します!

棚田を**放棄する方が自然破壊**につながる

日本の自然は**ほとんど手をつけられたもの**  
棚田(里山)も自然といえる

昔から棚田には独特の風景とか生物がいるので、  
今からでも**棚田を守ることは必要**だと思います

棚田は自然と言うが、平場と同じように  
**農薬を使ってる**のではないですか?

## 自然破壊?

一度棚田を作ると  
**維持するにも**  
**森林に戻すにも**手間がかかる

棚田を存続させるには**守る(保護・支援)のか**  
**自立できるようにする**のか

雲南省の棚田はいくら何でも**やりすぎだ**

人間がつくった環境が**自然**と言えるのでしょうか?

棚田が自然破壊なら、**都市のスクラップ&ビルドの方がよっぽど問題だ!**

棚田は人間が大地の恵みを  
持続可能なかたちで得る為にできたもので  
“ハカイ”じゃないよなあ

人類は原始人には戻れない  
**自然と人間の共生の象徴**の一つが  
棚田ではないでしょうか

棚田は**日本の原風景**である

**手つかずの自然、二次的自然、**  
どちらが豊か?

奥山は色々な野生動物の供給源  
**ココを壊し人工の場にするのは反対**  
いくら二次的自然の中で質が高くても、  
カモシカやツキノワグマは棚田では生きてゆけない  
冷静に見るとやはり追いやってる

棚田をつくったら、  
本来その場所に**生息していた生物は**  
どうなるのですか?

食料生産の“場”

手作業と棚田オーナー制度をうまくリンクしたら、  
それが**「棚田米」のブランド価値**につながるのでは

平場の田んぼ**じゃいけないの?**

## 生産の場?

棚田米は**おいしい!!** ブランド価値がある

棚田を利用して**飼料の生産**などをやったら?

傾斜地に水田を築く技術を継承し、  
**日本の稲作可能地域を少しでも多く確保**する

**食べることは大変**なのだ

秋葉原にたむろする**メタボ野郎**を棚田につれだすべし!

お米という農産物の生産の場として  
棚田を位置づけるのは**将来的につらい**とこですな

**生産効率が悪そう**だから、  
平地でつくれば良いと思う!!

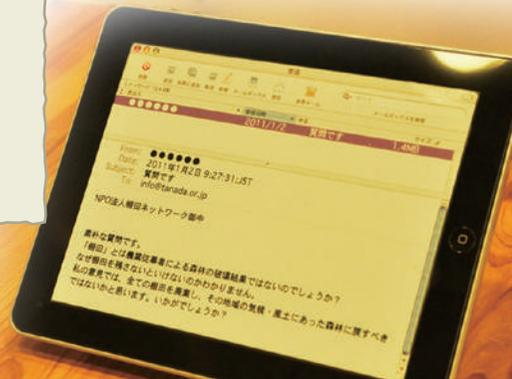
棚田での米作りは**ハンパ**じゃない、採算がとれない

山のふもと等、**斜面でも育てられる**

棚田の**一畝を貸し出して**週末に手入れをして  
稲を育てて**食べて楽しむ**

いずれ、地域ごとに**エネルギーも食糧自給も自立**に向かう時代が来る  
現実的に、平地に1億人は住めないだろうから、**山里の棚田は、よい知恵だ**と思います

棚田は  
守るべき  
なのか  
...?





**棚田は  
守るべき  
なのです!**

おしゃれたと思います。 **古き良き日本を思い出す風景**  
 ランドスケープとしては美しいと思う  
 夜になるとまっくらになるので、星や夜空をみていると、  
**命のつながりや宇宙・地球のありがたさを心から感じる**ことができる

水上すべり台にする。収穫後か? **困難に挑戦することに意味がある**  
 子供用に。ローラーもありうる **やりたい人がやる**

行くと何だかいやされる **棚田を一度体験してみるべき**  
 から、守っていくべき所 **そのうえで、守るかどうかが考えればよい**

**癒しの場**  
 いやしの空間

棚田の問題は中山間地の問題とイコールだと思います  
 オーナー制度などを通して、外と交流を持つということも、  
 その解決方法の一部かと……。 **子供たちが若い人と触れ合う場**にも

日本の稲作文化の一つ(もう一つは低地の湿地)として**残していきたい**ですね  
 特に**日本限定の文化ではないのでは?**  
 中国にもインドネシアにもある

利用が困難な場所を活用するという棚田は、  
**人間の英知、先人の努力を感じる**

**棚田は文化?**  
 日本の文化の原点

**文化として残してほしい**  
 しかし生産の場として残すのは大変  
 おじいさんおばあさんの手作業だけでは……  
 子供や若者の手が必要

米生産だけでない風景、文化、  
**都会の人が来てくれる**  
 いちど廃れても、  
 時代と価値観が変われば、  
**進化・復活する**

人が自然をうまくとり入れて、  
**食とダム効果を活かした芸術だ**

**日本の文化です**  
 人が手を入れない環境は守れません

棚田のように年間を通して  
 水が抜けない環境は  
**様々な生物を育む場**になる

棚田は**生き物の宝庫** **地すべり地帯だけ残せばいいのでは?**

棚田には**地すべり防止の機能**がある **高台につくって、  
 津波に負けない場にする!**

**生物多様性で棚田の優位を主張するのは無理がある**  
 原生林にも生物多様性はある!!

棚田を守る→棚田を生かす **保水、水浄化、温暖化防止、  
 昆虫・野鳥のエサ場**

**棚田の役割?**  
**温暖化・豪雨化の時代にそなえ、  
 棚田を含めた周辺地域の地べたの広がり(流域)で  
 保水効果を考えたいな**

**国土保全のためだけの棚田以外にもあるんじゃない?**  
**人間がつくった環境が自然と言えるのでしょうか?**

森林のもつ、**環境形成効果、災害防止効果、生物保全効果**  
**すべて失っているのでは……?**

これまで交流のなかったところに**輪**が生まれる。  
**素敵なステージ=棚田**。ただ、支える人に対するバックアップは不可欠だ



## ポット苗で 震災募金!



丸の内・さえざり館の企画展示「棚田は守るべきなのか？」の後半で行われた「ポット苗で田植え&育成体験」(5/9～5/30)は、当初棚田保全の募金活動を目的に企画されましたが、3月11日に発生した東日本大震災を受けて、急遽全額を震災被害にあわれた方への募金にあてることになりました。

今回のポット苗の目玉である棚田の土を、栃木県茂木町岩ノ作棚田、静岡県松崎町石部棚田、新潟県小国町桐沢棚田の3か所から入手し、2回の苗の入荷で約1ヵ月で約60ポット、31,500円の募金を集めることが出来ました。ありがとうございました。

## 棚田ネットワークで集めた震災募金を日本赤十字社へ

棚田ネットワークが会員やHPを通じて呼びかけていた東日本大震災への義援金が、たくさんの方より寄せられました。

義援金	76口	720,000円
ポット苗	約60口	31,500円
合計		751,500円

義援金は6月7日、  
全額を(社)日本赤十字社に  
寄付させていただきました。  
ご協力、誠にありがとうございました。



## 天まで耕す

人は生きるために食べつづけなければなりません、それは未来永劫に変わることはないでしょう。

そうしたなか、棚田は来る年も来る年もお米を作りつづけてくれました。もしかすると、私がここに存在できたのは棚田のお陰ではないかと考え、棚田に頭がさがります。

棚田つくりのため、祖先たちは早朝暗いうちから山奥へ通い、来る日も来る日も鍬をふりあげ、重い石を積みあげ、土を運び、さらに遠くから水を導く溝掘りなど、たいへんな重労働をつづけ完成させたことでしょう。

そうした棚田を目の前にして静かに対峙していると、言葉をこえて祖先たちと対話ができるような気分になってきます。

写真は佐賀県相知町の葦野の棚田です。ファインダーをのぞきながら「耕して天にいたる」という言葉が思い浮かびました。



# 棚田のすかた

写真と文  
永田博義

## Profile

永田 博義 ながた ひろよし



1938年、長崎県佐世保市生まれ。東京電機大学大学院修了。1956年、アルバイト先でDPEに興味を持つ。1976年、写真家・前田真三氏に邂逅し指導を受ける。1980年、東京都職員写真展特賞受賞。2003年、ポストカード「遺産 日本の棚田I・II」出版。2004年、写真雑誌「日本フォトコンテスト」において「遺産 日本の棚田」を1年間連載。現在、全国の棚田をはじめ農村風景を撮影している。千葉県在住。棚田学会会員。

- 個展 2009年「日本の棚田」 富士フィルムフォトサロン東京、同・大阪
- 写真集 「本土寺の四季」(1984) 「偕楽園遺述」(1997)



## 風渡る里

## うえやま

### 京都府京丹後市丹後町上山<sup>うえやま</sup>

小さな引き出しを整理していると、ノートの端っこが見つかった。

『そよぐ風、眼下に眺める日本海、小鳥のさえずり、ふりそそぐやさしい陽ざし、そんなものが、ふつと、心を休め、手足をとめる。自然っていいなあー。やがてカエルが鳴き出すと、風がざわめき、あたりはうつつとうつつと。海からの雲行きが怪しい。腰をのぼしながら、今日はこの辺で…、と風にささやく。田んぼで草取りをしていると、自然界の生き物達が、いっぱいメッセージを贈ってくれている。大きく深呼吸をして、心豊かになって、腰の痛いのと差し引きしても、良かったなあーと充足した気分になる。自然って与えてくれるものがありすぎる…。人は自然に何を

お返ししたらいいのかなあー』

十年程前に感じたままを走り書きしたものだ。へえー。こん

な事感じていたのやなあー。

京都府の最北端、経ヶ岬灯台と碇山を結ぶ標高2000以上の中山間地にある京丹後市丹後町上山、二十年前に、夫と二人で復活させた棚田でのことである。山と海の間にあるこの小宇宙のような棚田が私は大好きだ。

ここ上山は、民家が並ぶ急な坂道を中心にして、東西に棚田がある。天応元年（781年）に創建されたとある吉野山上山寺<sup>じょうざんじ</sup>を中心として、古くから栄えた所であり、地区のあちこちにそのなごりが残っている。近代においては、昭和三十八年の丹後地方を襲った豪雪を境に、丹後の奥深い山村がそうであったように、上山も離村する人が続き、現在は六世帯（うちターナー三世帯）となってしまう。夫と稲作を始めた二十年前に、紺屋<sup>くわや</sup>（屋号）のお父さんから「節子さあ、そんな腰の痛い事したらんと、大将（夫のこと）に薬（除



上:急な坂道に並ぶ民家とその西側の棚田(写真集『心のふるさと丹後II』を出版した坂根正喜さん提供の写真) / 下段左:ふるさとボランティア活動。獣害防止のため、田に隣接する荒れた竹やぶの環境整備。京都大学秋津ゼミ学生&NPO法人京都・深草ふれあい隊「竹と緑」の皆さんと / 下段中:丹後のマチュピチュ!?民家の西側に広がる棚田。丹後松島が見える / 下段右:地元宇川小学校5年生と無農薬栽培の黒米作り。やっと稲刈り終了

草削)まいてもらええー」と、よく言われたものだ。そのお父さんは八十代になり、もつとも長老が八十八歳と、地区のお父さんお母さん方は年を重ね、高齢化がみられる進んでしまった。しかも世帯数が少ないとあり、限界集落なのである。

大畑と呼ばれる東の棚田は、水源まで740mほど、碓山の中腹斜面にへばりつく水路の維持が大変である。早春の水路掃除の折、向側の山の斜面に凜として咲く白い梨の木の花がとて清々しく、そこまで掃除が進むと、後少し、とがんばれた。しかし四、五年前からは、イノシシ等の獣害も重なり、田畑の維持が困難を極めている。

そんな中、三年前より、京都大学の秋津元輝准教授のゼミと上山地区が、ふるさと共援事業に取り組み、上山のふるさと再生を図っている。小さな集落ではあるけれど、それを機に、ふるさとボランティア活動(獣害防止のための竹林整備)

を共に呼びかけ、NPO法人京都・深草ふれあい隊「竹と緑」の皆さんとの交流も始まり、心強い支えとなっている。上山のさわやかな風の中に、若い学生さん達の声が響き合う。このふるさと共援事業の組織名は「風渡る里うえやま」と名付けられた。更に、大学の先生方による上山産こしひかりの直販や、京大学生協食堂での上山産無農薬栽培の黒米入りご飯の販売、そして、そのご飯一杯に付き三円が上山のふるさと再生の為に基金として積み立てされる。感謝の一言♡



京大学生協食堂で上山産無農薬栽培黒米入りご飯が販売された

碓山から湧き出る水で米を作り、その同じ水で生活が営まれ、脈々

と続いてきた上山の暮らし、長老達の頑固なまでの生き様の中に、現存する棚田が残されてきている。それらを大切に維持し、新しいエッセンスを加えて、ここでしか出来ないものを創り出してゆこう。小さな宇宙の土が守られ、水が守られる暮らしの中にそのヒントを見つけ出そう。

風渡る里うえやま、多くの人々に助けられながら、こんな事にはまりこんでしまう若者の定住者を、今もつとも待ち望んでいる。そして、自然からのメッセージに耳を傾け、生きる原点を熱く語り合いたい……。

上山区 栗原節子

### ■ 上山の棚田へのアクセス

【公共交通】 KTR宮津線峰山駅下車。丹海バス(海岸線)に乗り、高田橋下車、徒歩約50分

【自動車】 綾部宮津道路・与謝天橋立ICで降り、国道178号線等で丹後半島北部へ。宇川温泉近くの久僧交差点から山側に入り一本道

### ■ お問い合わせ

【上山区長】 吉本 好夫 Tel.0772-76-1335

【ふるさと共援事業】  
上山地区 代表者 栗原 稔 Tel.0772-76-0949

風渡る里うえやまホームページ

<http://www.geocities.jp/ueyamaku/>



民家の東側にある大畑の棚田より日本海に沈む夕日



## 第2話 棚田枯山水

イラスト：横山功



20XX年……  
 荒廃した放棄田にアーティストが集まり、  
 作品を製作・展示する場として活用され始めます。  
 それはニューヨークのソーホー地区がごとく、  
 スタイリッシュなムーヴメントとして日本を代表する産業となるのです。  
 四年に一度開催される「タナダ・ランドアートフェス」は  
 グーグルマップの衛星写真を利用した宇宙視点の作品として  
 全世界で発表され始めます。  
 その中でも評価が高かったのが、  
 日本チームによる棚田枯山水でした！

みなさんの楽しい  
 アイデアを募集しています！！

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号「棚田に吹く風 未来予想図」宛  
 メールでも受付けています ⇒ [hiroba@tanada.or.jp](mailto:hiroba@tanada.or.jp)

## 田んぼの 生き物たち

### 第26回 シュレーゲルアオガエル

田んぼに水が入り、田植えが始まると、冬の間寝ていたカエルたちが一斉に大合唱を始めます。今の時期、自宅前の田んぼでは、ニホンアマガエル、トノサマガエル、シュレーゲルアオガエルの3種類が主に鳴いています。



撮影：桐原佳介

田んぼの畦際の土の中に、白い泡に包まれた卵塊を残して行きます。平地から山里まで広く見られるカエルですが、世界広しと言えど分布しているのは、日本の本州だけという我が国の固有種です。彼らは、農業の営みがある場所に寄りそって生きていく重要な里山の野生動物の一種、森と田んぼが近い環境が特に好みます。田んぼが潤っているしばらくの間は、彼らのラブコールを楽しむことができます。



そのなかでも、シュレーゲルアオガエルは、コロコロコロと耳心地のよい声を出します。ジブリ映画にもよく効果音として使われ、「となりのトトロ」や「もののけ姫」などで上手に作品を演出しています。

金色の虹彩に、緑色の美しい色彩と大きな吸盤が特徴です、特に鳥取県の個体は、まだら模様がなく、アオガエルの名にふさわしい様相です。結婚相手を見つけ、田んぼの豊かさを示すバロメーター。みなさんの周りにはどんなカエルたちが鳴いていますか？  
 (自然観察指導員 桐原真希)

# 棚田博士 は 今日も行く!

## 中島峰広の 全国棚田行脚

### 剣山に連なる旭ヶ丸山麓の棚田

徳島県佐那河内村府能



佐那河内村は徳島市に隣接し、その西にある。東西に横たわる山嶺に挟まれた中央を紀伊水道に直接流入する独立河川園瀬川が流れ、その谷底平野に大部分の集落が立地している。狭い平野の北は300〜400mの丘陵性の山地であるが、南は1000mをこえる山並みが連なり、徳島の市街地に近いにもかかわらず山深い感じがする。

府能は佐那河内村の西端、園瀬川の最上流部に位置する集落。棚田百選の認定が行われる前の1997年、徳島県総合福祉センターの情報誌『いのち輝く』の特集記事「棚田の里を歩く」にイラスト入りで紹介され、訪ねてみたいと思っていた。

### 石積みきれいな棚田

2010年2月下旬、上勝町で開催された棚田シンポジウムに参加した折、念願をかなえることができた。徳島駅から1日8便運行の佐那河内線の徳島バスに乘車。バスは、国道438号を辿り、徳島のシンボル眉山の裾を捲くようにして走る。馬場の辺りで市街地が終わり、田園がひろがる園瀬川の谷底平野のなかを西へ向かう。最初広くゆったりとしていた谷幅もしだいに狭くなり、一ノ瀬から丘陵が迫る峡谷となる。しかし、尾境から再び川沿いに平坦地をともなう谷底平野にかわり、比較的谷幅が広がっている中辺に佐那河内村の役場があった。南の六郎山から旭ヶ丸にかけての山嶺には風力発電用の風車が林立、15基まで数えることが

できた。やがて、行く手に山が迫り、園瀬川の最上流部にあるバス停仁井田西に到着。この先は長いトンネル、そこを抜けると隣町の神山町になる。石積みきれいな棚田の出迎えをうけてバスを降りた。府能は、園瀬川左岸の西府能と右岸の東府能にわかれ、仁井田西のバス停は両者の接点にある。園瀬川の河谷は露出した母岩の上に巨礫が横たわる峡谷。河岸からは棚田の石積みに遮られ東西の府能集落を見ることはできない。影浦橋を渡り急坂を上ると目の前に東府能の集落が現れる。振り返ると谷を隔てた対岸は西府能の集落、

### なかしま みねひろ 中島 峰広 (棚田博士)

早稲田大学名誉教授。学術博士。NPO 法人棚田ネットワーク代表。棚田学会会長。全国棚田(千枚田)連絡協議会理事、棚田サミット開催地選定委員会委員長。1933年宮崎県生まれ。早稲田大学教育学部地歴科卒。2004年まで早稲田大学教育学部教授。著書に『日本の棚田—保全への取り組み』『百選の棚田を歩く』『続・百選の棚田を歩く』(以上、古今書院)。現在、百選外の棚田についての執筆準備のため全国行脚中。



民家と耕地が急斜地にはりついている。東府能は、戸数17戸、中山間地域等直接支払制度の対象面積は5・2畝、大部分が飯米確保を目的とする水田10〜20畝を耕作し、転作田での菜の花や樹園地でのミカン、スタチを栽培する兼業農家である。

## 東西に分かれる棚田の様子

棚田は、集落の東と西に分かれている。集落の西は、傾斜3分の1の地すべり斜面に棚田がひらかれている。下段の河岸から集落の民家までの部分は、およそ20段、石積みの高さは1・5畝前後、形は川の流れに沿って細長く、畦畔はコンクリート、面積は2〜3畝ほどの棚田である。最下段近くの5段は放棄され、一部転作され野菜として出荷される菜の花が栽培されている。それを収穫する農婦を見かけたが、花芽のついた先端部分を摘み取っていた。集落を上げる谷側の崖には地すべり防止の水抜き場があり、パイプから勢いよく水が噴き出していた。上段部分は7〜8段、3列になり、石積みの高さは1〜2畝、面積は比較

的小さく1〜2畝、法面が土坡の棚田である。

これに対し、集落の東は、民家からスギ山までの傾斜6分の1の斜面に10段ほどの棚田がある。民家に接する棚田は石積みが3畝をこえる高さ。コンクリートで舗装された農道と石積み間に亀裂があり、地すべりで多少石積みが孕んでいる。他の石積みは高さが1〜2畝ほど。ところどころコンクリートブロックにかわっているのは地すべりによる崩壊が激しく、修復に苦労している痕跡といえる。形は等高線状、広さは2〜4畝ほど。畦畔には分厚い合成ゴムのベルトコンベアが用いられている棚田が数枚あった。棚田に接するスギ林はスギの先端に段差がみられることから、かつて棚田であったことを示している。これらのさらに東には、2列、15段近くの雛壇のような感じの棚田が並んでいる。石積みの高さは1〜3畝、大部分が転作田となり菜の花が栽培されており、一部スタチの畑にかわったところもみられる。



石積みが見事な府能の棚田

## 集落の長老・青木さんに話を聞く

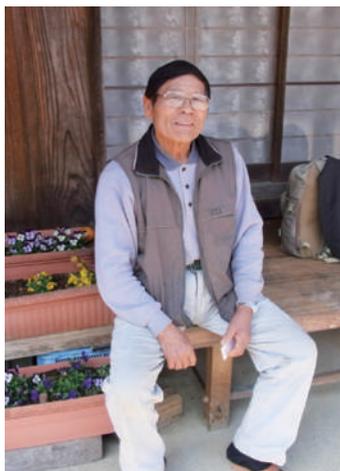
役場で紹介された集落の長老、東府能地区中山間地域等直接支払の代表・青木豊さんの家を訪ねた。青木さんは78歳、77歳の奥さんとの二人暮らし。1976年、46歳になるまで1畝のみかん園を所有する専業農家として働いたが、みかんの価格下落と長男が大阪の大学に入り学資が必要になったため、補助金を貰ってみかんを皆伐、青木さんは徳島の東陶に、奥さんは役場に勤める兼業農家になった。

現在は所有する水田50畝のうち30畝を耕作、園瀬川左岸の日ノ地に新しく植えた十萬温州のみかん

園45畝を経営する専業農家である。労働力は普段は夫婦のみ、田植えと稲刈りの時に県庁に勤める長男が機械を使い手伝ってくれる。水田は、屋敷に続く山手に9枚、30畝がまとまってあり、1枚の広さが台帳では3〜4畝であるが、収量からみると実際には縄延びがあり4〜5畝ではないかと仰しやる。棚田のある山村は貧しいのでお殿様が目溢しをしてくれたのだという。同じような話は各地の山村で聞いたことがある。

東府能の用水は、園瀬川の上流3か所から引水されており、上段が峰用水、中段が西鉾用水、下段が武市用水とよばれている。青木さんの水田は中段の西鉾用水、西

銚子は青木家の屋号でもあり、青木家を中心にして6戸で利用。毎年4月10日に800坪の長さがある水路の井濠い「アラユツクリ」とよばれる作業を共同で行っている。開渠での作業を省くため、途中パイプにしたところがあるが、枯葉が詰まると掘り起こして取り除かなければならず、かえって面倒になったと嘆かれる。源流に近く、水温が低いため、直接イネに水がかからないように、それぞれの棚田では水口から畦に沿って「ヨケ」が設けられている。さらに、水管理に細心の注意が払われ、5月10日頃の田植えから有効分蘗ぶんげつが終わる7月10日頃までは朝5時〜7時の間、その後は8月の下旬まで夜10



上：青木馨さん／下：みかんをサイズ別に分ける。最も値の良いのはLMサイズ

時〜朝5時の間に灌水される。勤めている時は出勤前にこれらの作業を行っていたというから大変な努力が必要だったと思われる。畦には製塩工場から貰ってきたベルトコンベアが張られていた。ビール製の畦シートは耕耘機などの機械に触れるとすぐに壊れてしまいが、これはそんなことがなく都合がよいと仰しやる。

耕耘は、1950年代は父親がメスウシに犁を引かせて行っていた。父親は近衛騎兵として軍役を務めていたため、ウシが暴れた時に顔を押し上げなければならぬのに軍役時代のウマの扱いと同じように顔を押し下げたため、角で突かれそうになり近所の人に笑われたそう。1960年代になると牽引機に犁を引かせるテラーにかわり、その後現在も使用されているロータリー式の耕耘機で行われるようになった。田植えは歩行型2条植え、収穫は乗用型2条刈りコンバインが用いられている。

農作業の合間に楽しむ趣味は奥さんと一緒に参加するグランドゴルフとカラオケ。カラオケは北島三郎の「北の男船」と「風雪流れ旅」が持ち歌。昨年まで徳島中央カラオケ連合会の会長を務めたほどの傾倒ぶりだ。

最後に、手間のかかる棚田を放棄せずつくる意味を聞いたところ、「イノシシ・サル・シカなどの獣が屋敷近くに現われないため」、「地すべりが起こり家が潰されないため」、「ご先祖が残してくれた宝物だから」という答えが返ってきた。

### 府能集落へのアクセス



【公共交通】JR徳島駅から徳島バス・佐那河内線で約50分、仁井田西停留所下車。

【自家用車】JR徳島駅から国道438号線をたどる。佐那河内村役場から仁井田西バス停までは約4km。

# 福島県飯館村を訪ねて

東京都練馬区 安井 一臣



去る5月上旬、原発の放射能汚染で揺れる福島県飯館村を訪ねた(写真1)。訪問先は、村の北部に位置する佐須字虎捕(とらとり)集落の畜産農家・高橋二夫さん。最初に私を迎えてくれたのは、飯館牛で有名な黒毛和牛の子牛たちであった(写真2)。集落は、のどかな春の盛り(写真3)。春の作付け準備を終えた田畑の傍らでは、草木が新芽をふき、季節の花を咲かせている。耳を澄ませば、心地よい春の風に小鳥のさえずりが混じる。何の変哲もない、極々ありふれた田園風景そのものである。

幸いにして、この集落では3・11大地震の揺れによる被害もほとんどなく、福島第一原発からも50\*<sub>μ</sub>くらい離れている。だが、地震の後、原発で立て続けに起こった水素爆発

により放出した放射能に汚染され、計画的避難区域に指定されるに至った。その結果、稲もダメ、野菜もダメ、果樹もダメ、牧草もダメ(写真4)。全村民は原則として5月末までに村外避難しなければならない。農家のテレビにテロップで流れる「本日の放射能情報」によれば、訪問当日のレベルは、4.2マイクロシーベルト/時。この状態がひと月以上続いているという。各地の農村で普通に見られる春の風景と、目に見えない放射能に翻弄される現実のギャップに不思議な感覚をおぼえた。この村がもとの平穏を取り戻す日が一日でも、いや一秒でも早いことを祈らずにはいられない。

会  
員  
の  
ひ  
ろ  
ば



会員の声募集!



「こんな活動をしています」「こんなことやります」という皆さんの声を編集部までお寄せください!「ご要望、感想やご質問でもOK!」(会員の声800字まで、会員レポート400字まで、写真も添えて) 〒160-0002 東京都新宿区西新宿7-1-181-16 トーシンハイム704号「棚田に吹く風 会員のひろば」宛 メールでも受け付けています ↓ [hiroba@tanada.or.jp](mailto:hiroba@tanada.or.jp)



### 今年も頑張るぞ!!

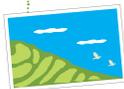
東京都府中市 今井 英輔

じいちゃん：「我が家の小さな棚田では、家族で食べるお米、都会に住んでいる息子に送るお米を作っているよ」

ばあちゃん：「じいちゃん、畑にはモロコシを植えましょう。お盆には孫たちが来ますよ!」

じいちゃん：「ぞ～だ 畦には枝豆を植えよう。よし、今年も 頑張るぞ!!」

(長野県長野市大岡村 乙花尾)



### 会員のみなさんの ベストショット募集!!

みなさんが撮影した棚田や作業風景の写真など、ベストショットをコメント（70文字程度）を添えて編集部まで送ってください。毎月、紹介させていただきます！送り先は右ページ「会員の声募集！」の住所もしくはメールにて。



## 編集部イチオシ! BOOK & Movie



2009年/112分  
DVD発売中  
発売元:紀伊國屋書店  
出演:満島ひかり 他  
監督:石井裕也

### 川の下からこんにちは

上京して5年目のOL佐和子は「あたしは所詮『中の下』ですかり」と仕事も恋も妥協した生活を送っていた。ある日、父親が余命わずかだという知らせが入り、一人娘の佐和子が実家のしじみ工場を継ぐことになる。しかし工場は倒産寸前、そこで働くオバちゃんたちからはいびられる毎日。追い込まれた佐和子は、これまでの「妥協」した人生に初めて向き合うことを決意する。閉塞感を抱えながら中途半端に生きて来た人々が一生懸命にどん底から這い上がってゆく姿に、可笑しくも勇気づけられる。「地域を元気にする」ことについても考えさせてくれる一本。



著者：田中卓二  
¥2000円+税  
ウイング出版部  
2011年3月

### 食育のまち 紀の川市 〜食育と歌のまちづくり〜

農水省に勤務する著者は「田んぼシンガー・棚田たくじ」の別名を持つ。作詞作曲演奏をし、20代ごろに鹿児島県末吉町に2年間赴任した際の経験などからCDも4枚ほど制作している。その彼が、今度は本を出版した。2007年から4年間、和歌山県紀の川市で農林商工部長としてさまざまな業務に携わった中で、主に「食育」につながる内容がまとめられている。「食」農から導かれる「水」や「観光」など、紀の川市のいろいろな顔も紹介されているが、その豊かさは紀の川市民が羨ましくなるほど。棚田ネットワーク会員。



このコーナーでは、棚田ネットワークのスタッフの活動や事務局のことなどを幅広くお伝えしていきます。

総会・講演会の振り返り

2011年4月24日 報告 山浦陽一

今年の総会、初めての会場で立ち見が出るほどの大入りでしたが、天気は大雨、財政状況の厳しさもあり、やや重い雰囲気でした。

しかし後半の講演会で、中島先生や講師の水俣・愛林館の沢畑さんのお話があり、会員が自分の活動を紹介・発表する「自己紹介タイム」は、発言希望者が次々とあられて時間オーバーになるほど。全国の棚田地域の活動に改めて励まされました。

棚田ネットワーク、2011年度も頑張っていきましょう！



「棚田番長に聞いてみよう！」を開催しました

2011年5月27日 報告 高桑智雄

さえずり館・企画展示のセミナーイベントとして、佐渡の岩首地区の棚田番長でおなじみの大石惣一郎さんをお迎えて、「棚田番長に聞いてみよう！」を開催しました。会場は熱狂的な大石ファンで溢れ、30名を超える参加をいただきました。今回はいつもの大石節での活動報告に加え、岩首棚田に出会って人生が救われたという大石さんの子分、某有名大学の学生の熱弁もあり、また大石さん自慢の岩首米のおむすびも振る舞われるなど、内容盛りだくさん！活気のあるイベントとなりました。



棚田ネットワークの事務所は西新宿にある9階建てビルの7階、ワンルームマンションの一室です。ここに来る前は、神楽坂に近い居酒屋さんの2階でした。狭いだけでなく、穴蔵のように暗くて床も傾いており、あまり居心地は良くありませんでした。まあ築80年の建物でしたから、当然かもしれません。移転したときは、明るくてきれいだし、歩いても床もきしまないし、とても嬉しかったものです。数年前には、日曜大工の好きな会員さんが、机・本棚引き出しをひとそろい作り付けてくださったので、無機質なスチールデスクの事務所から、見た目にもエコな木目調の快適オフィスになりました。しかし、移転後6年半。活動が拡がり、人も荷物も少しずつ増え続け、良好な環境を維持するのが徐々に困難になりました。イベントの前後は、ここが作業場にもなります。幾つもの荷物が届き、準備を整えて会場に搬入。終わったら撤収し、とりあえずすべてをまたここに運び込むのですが、そのときは足の踏み場もないくらい。毎月の理事会も、フルメンバーになるとかなり窮屈。少し人数の多い会議は場所を移してやるしかありません。事務所としては十分なのですが、作業場と会議室とくつろぎを兼ねたスペースがほしいなあ。そうすれば、会員さんも気軽に遊びに来られて、会員同士で「〇〇棚田を見に行きたい」「△△の稲刈りを手伝いに行こう」「××の物産で料理をつくって食事をしよう」「棚田Tシャツをつくったら売れるか？」なんて話が盛り上がり、幾つかは実行に移せるかもしれない。ま、今の財務状況では移転などとても考えられないので、当面は仮想空間Ⅱネット上で、そういうバーチャルスペースをつくることを検討中です。

スタッフの  
つ・ぶ・や・き  
＜輪番制＞



今回のつぶやき人  
事務局  
畦野花世



## 栃木県茂木町

### 茂木プロジェクト

#### 岩ノ作棚田で田植え



上：岩ノ作棚田のレンゲ（撮影・山田千愛）  
下：岩ノ作田植え

去る5月14日（土）、今年の田植えを行った。当日は文字通りの五月晴れ。参加者28名に地元農家の指導者7人を加えた総勢35名の笑い声が、緑滴る岩ノ作棚田にこだました。参加者中最年少の古賀百合子ちゃん（2歳）が、泥だらけになりながら田んぼの生きものに触れていたのは特に印象深い。百合子ちゃんにいろいろな生きものを見せようと、地元の松山ヨシ子さんが尽力してくださった。いつものことながら、地元の方々のご支援には感謝の言葉もない。3㍓の田んぼで田植えを終えた後は、道の駅「もてぎ」特製の棚田米おにぎりの昼食。午後は棚田散策や爽やかな風が吹き抜ける日陰での休息など。今回はグループより個人参加が多かったが、知らない人同士が直ぐに打ち解け、友達同士になれたのは大きな収穫であった。この新しい絆はこれからの活動の大きな原動力になるに違いない。これを大切にしながら秋の稲刈りを迎えたい。

福島原発による風評被害は茂木町にもおよび、道の駅「もてぎ」に例年の賑いは見られない。地理的に見ると、茂木町は風評被害の防波堤の位置にある。今回は、そこでの買い物時間をいつもより長くとった。皆さんは、風評に惑わされることなく、野菜やくだものをたくさん買ってくださった。これも立派な被災地支援だと思う。（安井 一臣）

## 岐阜県恵那市

### 棚田ビオトープ プロジェクト

#### 棚田ビオトープ田植え



雨天の中、6月2日（木）10:30から棚田ビオトーププロジェクト岐阜恵那の田植えをしました。昨年度から平日に開催、土日がお休みでない方々から好評のお声を頂きましたが、今年度の参加者は岐阜県立国際園芸アカデミーの学生を含め3名。稲刈りは雨降りの時にはできないけど、田植えはできる、との言葉通り、カッパをきてまずは水田の中の除草、そして田植えをしました。午前中は3枚あるうちの真ん中の「ふれあいの棚田」の除草、田植え。午後からは上の「昔ながらの棚田」の除草（畦畔のフランスギクも含む）、田植えをしました。下の「休耕田のビオトープ」は田植えをしないのでこれで終了。14:30には服を着替えることができました。3月に生まれたヤマアカガエルの卵は、手足が生えてきたオタマジャクシや幼体に、また、ニホンイモリの成体も見つけることができました。

8月3日（水）9:30から棚田ビオトープにて「夏休み・こどもビオトープ観察会」を企画しております。サポートスタッフを募集しますので、ぜひご参加ください。（相田 明）

## Topics 伝統を守り、生物多様性と共に進化する島「佐渡」！

佐渡ヶ島といえば、金山・トキ・日本一大きな島！ 何処にある島ですか、と言う人は少ないと思います。おかげ様で話題には事欠かない島だと思います。大きさは、東京23区の約1.5倍、皆さんが思っているよりも、随分大きな島です。島の中央、国仲平野に居ると島という事を忘れる位の平野が広がっています。そんな大きな島に7万人弱の人口ですから、経済活動の低迷にあえいでいるのが現状です。そこに追い打ちをかける観光低迷！

そこで佐渡では現在、トキをシンボルとした「環境の島」を前面に打ち出した振興策に取り組んでいます。農水産物のブランド化、各種学校の研究合宿誘致、土木工事に於ける環境配慮等々です！ そんな佐渡ヶ島の新たなチャレンジが、先進国初・国内初のFAO「世界重要農業資産」（GIAHS）への登録申請です。6月11日午後、北京で協働申請の能登半島と共に無事認証されました。中島先生にも認めていただいた「岩首棚田」も今回のGIAHS登録ポスターに使用されました。皆さんのお陰で世界発信された「岩首棚田」に、是非おいで下さい。（岩首棚田 棚田おじさん 大石惣一郎）



今年もやります！ 佐渡ボランティアツアー 7月16(土)～18(月・祝) 詳細は→棚田に吹く風 かわらばん、棚田ネットHPをご覧ください



人と自然がつながる棚田。

今、人類が未だかつて経験をしたことがないような早さで気候が変わろうとしています。その影響を真っ先に受けるのが農業です。人が自然と共生する中で作り上げてきた棚田。一方で、その営みを続けること自体が難しくなっている今の時代の現実があります。気象サービスはこの問題を直視し、人と自然との接点としての農業を考えてゆきたいと思えます。

WEATHER SERVICE CO., LTD.  
株式会社 気象サービス

株式会社 気象サービス 東京都練馬区桜台 1-20-4 TEL.03-5999-2727 ホームページは <http://www.weather-service.co.jp/>

## 棚田の応援団

わたしたちと「棚田の応援団」やりませんか！

棚田ネットワークは「棚田の保全に協力したい!」という会員によって自主的に運営されているNPOです。消えゆく美しい「棚田」をどのように保全していくことができるのでしょうか?一緒に考えませんか?ぜひ、私たちと棚田の応援団になりましょう!

会員になると!

会報誌「棚田に吹く風」(年6回)やイベント案内お届けの他、棚田ネットワークが主催する各プロジェクト(イベント)への参加や、スタッフとしての活動もできます。

年会費

○個人会員  
維持会員 1口1万円(1口以上)  
一般会員 3,000円  
学生会員 2,000円

法人会員を募集しています!

私たちの活動にご支援・ご協力をいただける企業、団体、事業主さまを募集しています。詳細はお問い合わせください。

年会費

○法人会員  
1口3万円(1口以上)

この上のスペース(ページ上1/2サイズ)は法人会員さまのPRスペースとして広告や広報にご利用いただけます。(詳細はお問い合わせください)

## 編集部から

震災の影響で予定を押し始めたさえずり館での企画展示が、5月末に好評の内に終了しました。今回は、棚田ネット若手のデザイナーコンビが斬新なアイデアと遊び心満載の企画、そして洗練されたデザインで会場を飾ってくれました。宇宙から顕微鏡で見た棚田、棚田の未来予想図、ポット苗での田植え体験など、あえてキレイな棚田写真を出さず、しかもテーマは挑発的な「棚田は守るべきなのか?」。一部賛否もありましたが、最終的には「棚田は守るべきなのです!」という熱い思いが伝わったのではないのでしょうか。さえずり館スタッフの方々もノリノリでお手伝い頂き、本当にありがとうございました!

## ホームページのぞき見!

棚田ネットワークHPは、主要検索サイトの「棚田」で、ほぼトップにランクする優良サイトです!内容も盛りだくさん、今年はウェブ独自企画も計画中!乞うご期待。



[www.tanada.or.jp](http://www.tanada.or.jp)

棚田に吹く風

2011年7月号 Vol.77

発行 NPO法人 棚田ネットワーク

〒160-0023  
東京都新宿区西新宿 7-18-16 トーシンハイム 704 号  
Tel / Fax 03-5386-4001  
e-mail : [info@tanada.or.jp](mailto:info@tanada.or.jp) URL : [www.tanada.or.jp](http://www.tanada.or.jp)  
郵便振替口座 : 00100-7-151565